


華藏雲
楊道
御室流

華藏界会

京の冬の旅















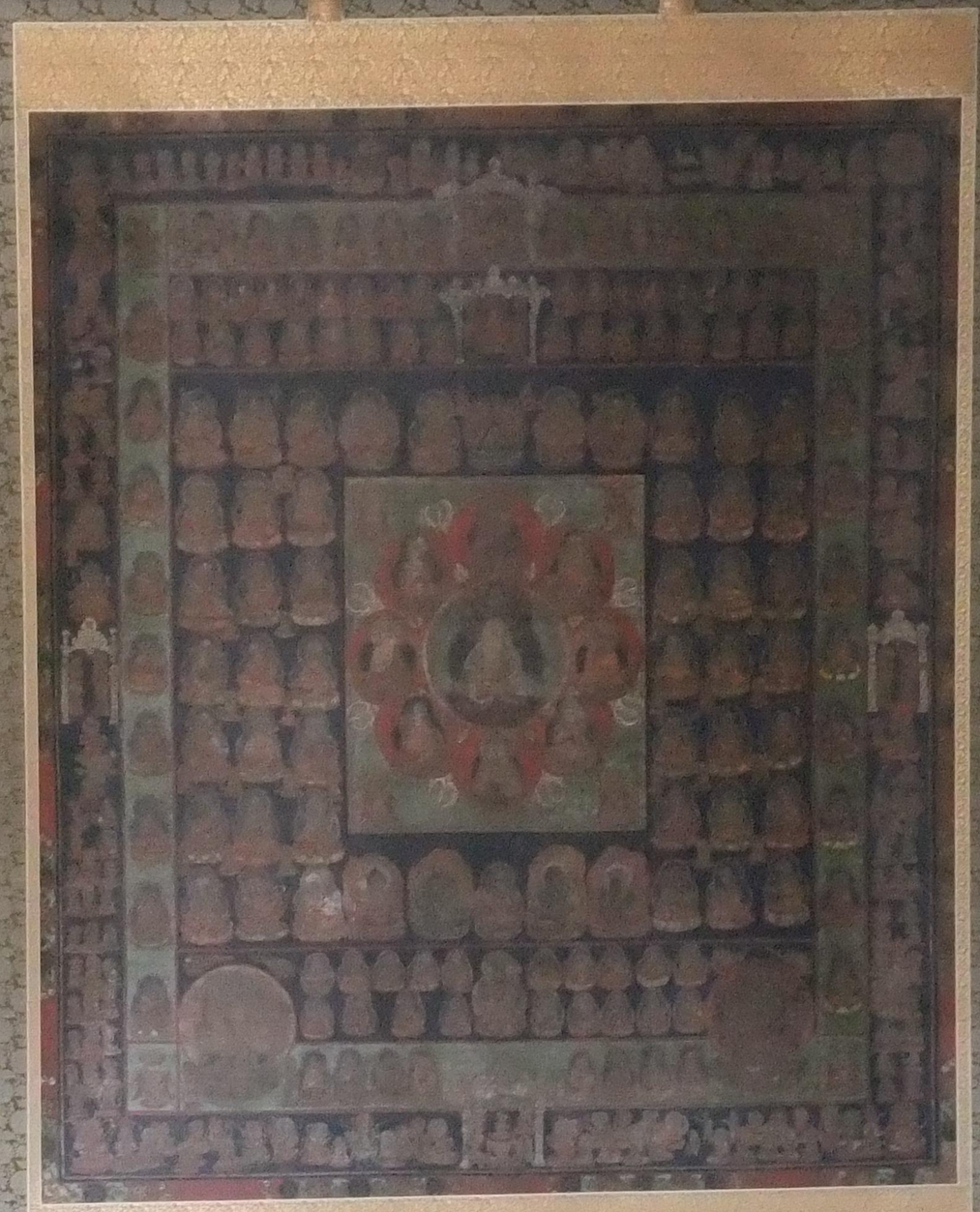




## 仁和寺略記

仁和二年（八八六）第五十八代光孝天皇は、都の
いう一寺の建立を発願された。
天皇は翌年崩御されたが、次の宇多天皇が先帝
にこの寺が創建され、年号をとって「仁和寺」と
寛平九年（八九七）醍醐天皇に譲位、二年後に出
なられた。さらに延喜四年（九〇四）には、仁和
（おむろ）」を建立され、永手元年（九三一）崩
住まわれたのである。
仁和寺の住職は「門跡（もんぜき）」と呼ばれ
法皇から、慶応三年（一八六七）幼帝によって退
千年の間、仁和寺は皇室の寺院として知られ
応仁二年（一四六八）兵火によりすべてが焼
消灯法灯を護持していた。
仁和寺第二十一世覚深法親王（一五八八～
仁和寺再興の申し入れを行い、約百八十年後
この時、御所から紫宸殿、清涼殿、常御殿、
正御殿、観音堂などは新築された。仁和寺再
した。
ところが、明治二十年（一八八七）五月、
大部分の建物を消失した。
明治二十三年（一八九〇）に、現在の白書院
九〇九）から本格的な再建が開始され、京
想によって大正三年（一九一四）に完成をみた
今日、金堂をはじめとする多くの建物は、
また、仁和寺の御室と御殿は、昭和十二年
（ひのき）、一部は仁和寺御所跡二に、焼内の桜
ている。さらに、平成六年に国連の「世界文
「古都」仁和寺は、真言宗御室派の総本山
られている。





# 仁和寺略記

仁和二年（八八六）第五十八代光孝天皇は、都の西北大内山の麓に「西山御願寺」という一寺の建立を発願された。

天皇は翌年崩御されたが、次の宇多天皇が先帝の意志をつがれ、仁和四年（八八八）にこの寺が創建され、年号をとって「仁和寺」と命名された。宇多天皇は在位十年、寛平九年（八九七）醍醐天皇に譲位、二年後に出家得度され、わが国最初の「法皇」となられた。さらに延喜四年（九〇四）には、仁和寺の中に法皇の御所である「御室〈おむろ〉」を建立され、承平元年（九三一）崩御されるまで、二十七年の間ここに住まわれたのである。

仁和寺の住職は「門跡〈もんぜき〉」と呼ばれている。「門」とは天皇を指し、宇多法皇から、慶応三年（一八六七）勅命によって退任された小松宮まで三十代、およそ千年の間、仁和寺は皇室の寺院として知られるところとなった。

応仁二年（一四六八）兵火によりすべてが焼失、その後、双が丘の西麓に仮御所を設け法灯を護持していた。

仁和寺第二十一世覚深法親王（一五八八～一六四八）が、三代将軍徳川家光に、仁和寺再興の申し入れを行い、約百八十年後再建されることになった。

この時、御所から紫宸殿、清涼殿、常御殿、などが仁和寺へ移され、山門、中門、五重塔、観音堂などは新築された。仁和寺再建は、正保三年（一六四六）に完了した。

ところが、明治二十年（一八八七）五月、火災により、仁和寺御殿を構成する大部分の建物を消失した。

明治二十三年（一八九〇）に、現在の白書院などが建てられ、明治四十二年（一九〇九）から本格的な再建が開始され、京都府技師亀岡末吉氏の全く新しい構想によって大正三年（一九一四）に完成をみた。

今日、金堂をはじめとする多くの建物は、国宝や重要文化財に指定されている。

また、仁和寺の伽藍と御殿は、昭和十二年（一九三七）史蹟名勝記念物保存法により、「史蹟仁和寺御所趾」に、境内の桜は「名勝御室桜」にそれぞれ指定されている。さらに、平成六年に国連の「世界文化遺産」に登録された。

なお、仁和寺は、真言宗御室派の総本山として、また、御室流華道家元としても知られている。





